

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570109611		
法人名	有限会社フラット		
事業所名	グループホームかぞく		
所在地	秋田市新屋比内町26-1		
自己評価作成日	令和5年09月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切に生活空間の提供を心掛け、日常生活の中で機能訓練・健康管理・社会生活上の便宜の供与・相談・援助などを行い、利用者がその能力に応じた、できる限り自立した生活が送れるように支援することを目指します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和5年11月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主(社長)が頻りに訪問しスタッフの声を聞いている。窓ふきや花壇の世話、草刈り等の環境整備に専門スタッフを定期的に会社が派遣してくれ、ホームスタッフは本来の業務に専念することができている。のんびりとした時間がゆっくりと流れているように感じられ、働きやすい環境がスタッフの定着率の高さに繋がっている。家族の面会頻度が高く、些細な変化でもあえてホームを訪問してもらうことを方針としている。家族から「前もって連絡しなくても、外出許可をしてくれるので、その日の天気を確認しながら面会や外出ができる。」と好評である。コロナ禍であっても、車窓から自宅周辺を眺める等の時間を設け、外出を率先するよう取り組んでいる。「利用者の前では、忙しくない。」とのスタッフの言葉が印象的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有化を常に心がけている。職員会議やミーティング時などに伝達確認を行っている	その人らしい・当たり前の生活・安心・個別に支援、を取り上げた誰からも分かり易い、文章で表現されたホーム独自の基本理念である。開設以来約18年が経過したが、今もスタッフの拠り所として、この理念を採用している。基本理念は、玄関、事務室、ホールに掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公共施設や・大森山・森林公園・梅林園・遊学舎などの公共の場などを利用することで地域での暮らし繋がりを意識しています	町内会や子供会が存在しないかつての新興住宅地であるが、大雪の時は互いに除雪を手伝う関係にある。近くの交差点が大雨で水に浸かった際は、近隣住民にホームの空き地を駐車場として開放している。近隣の特定施設入居者生活介護事業所の利用者とも挨拶を交わす関係。顔見知りの近隣住民は、「夜中でも何かあったら電話で駆けつけるから！」と頼もしい。近くの町内での各種イベントには、利用者と共に参加し楽しんでいる。高校生の職業体験(インターシップ)を毎年受け入れしている。	議事録への利用者家族については、フルネームで記載することに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	新屋地域包括支援センター、西部地域の選出構成員によるみまも～る新屋地域ネットワークへの参加…民生委員との連携もあり		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域民生委員、行政書士、地域包括支援センター、家族の代表などで開催予定としている	利用者・家族・民生委員・地域包括支援センター・担当の行政書士・社長も参加しての運営推進会議が、ホームを会場に2か月に一度開催されている。毎回、何枚もの写真や、報告事項、要望、意見、助言等、詳細な議事録が確認できた。9月には、事業継続計画(BCP)の作成に向けた、具体的な作成について、検討がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管轄行政からの説明会や各省連絡事項、調査報告事項の連携と併せて地域包括支援センター・公共施設と連携を図る	地域包括支援センターが運営推進会議に毎回参加している。市の担当課とは、必要に応じていつでも連絡を取り合うよう連携している。生活保護担当者がホームを訪れてくれたり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束は原則的に行っていない。(行わないための各ケースにおける対応策の検討・計画時の支援方法の確認を行う)	身体拘束等適正化対策検討委員会が3ヶ月に1回以上開催されており、過去対象者は皆無である。委員会には、かかりつけ医やホーム看護師、事務長も参加しており心強い。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度、権利擁護に係る各種制度の理解と不足な面は関わり合いの中で成年後見支援団体の方との話し合い活用を図る。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、すべてのご家族身元引受け人、代理人(ご家族)へ重要事項と契約内容、運営規定の説明を管理者が行い同意を得て確認の上で同意署名・契約事項などの締結をしている		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	受診状況・身体状況とともに生活状況を分かりやすく面会時・定期電話連絡時に報告して意見や要望の引き出しに努めています。ケアプラン作成時などにも働きかけ、運営に反映できるようにしている	ホームだよりは発行していないが、家族の面会頻度が高く、些細な変化でもあえてホームを訪問してもらうことを方針としている。面会時の他、電話やSMS、Eメールも活用し、家族と連絡を取り合っている。かかりつけ以外の通院は家族に付き添ってもらうとのこと。家族訪問時には、本人のホーム生活の様子を撮った写真を提供しており、意見や要望等を表せる機会に繋げている。家族から「私どもの話や希望をよく聞いてくれる。」との声があげられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	定期的な職員への処遇改善や運営状況等の説明や意見の聴衆の場を設け、管理者や事業主(社長)との話し合いや意見を話しやすい雰囲気や関係性を普段から図る	事業主(社長)が頻繁に訪問しており、スタッフの声を聞いてくれるとのこと。洗濯機が故障した際、すぐに代用出来るようにとの要望に応え、倉庫に新品の洗濯機が保管されていた。窓ふきや花壇の手入れ、草刈り等の環境整備に専門スタッフを定期的に会社が派遣してくれており、ホームスタッフは本来の業務に専念できる。のんびりとした時間がゆっくり流れているように感じられ、働きやすい環境がスタッフの定着率の高さに繋がっている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市内グループホーム連絡協議会(ケアパートナーズ)などの行事や研修会参加・活動を行っている		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	理解と接し方や態度、言葉遣いなど常に意識を持つことを継続したい		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	普段の生活状況などの情報提供を元に必要な支援策の話し合いや検討を行い、介護計画の立案と報告・連絡・相談の基本的な行いを実地		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	良好な信頼関係とその人らしさの理解、尊厳心、ご本人が活躍されていたころの思い出などをお聞きし、願いや思いの一部でも理解できるような対応を図る		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族関与の向上のための定期面会の援助促進と施設からの定期的な情報報告提供を図る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	なじみ深い人との関わり合いを継続できるような面会の機会、環境づくりを心がけている。また、電話の取次や家族への通信ができるよう支援し、電話時や手紙を書いたり便箋・ハガキの用意などを手伝っている。	県外の家族が、本人と市内に外泊したり、外食に出かけたりしている。家族から「前もって連絡しなくても、外出許可をしてくれるので、その日の天気を確認しながら面会や外出ができる。」と好評である。コロナ禍であっても、車窓から自宅周辺を眺める等の時間を設け、外出を率先するよう取り組んでいる。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居時のアセスメントやホームでの日常から利用者の生活歴や思いを知り、家族等の面会も比較的多い事もあり協力を得ながら関係の継続支援に努めています。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に話し合いのできる施設、訪れやすい施設としての印象、特徴を保つように図る		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話等から思いが引き出せるように心がけ、意向の把握に努めています	家族が付き添う通院の帰りに、材料を様々な購入し、趣味の工作を毎日楽しむ方は、秋田市認知症グループホーム連絡会ケアパートナーズの作品展示会で作品を披露。縫製会社にかつて勤めていた方は、ホームの雑巾を作ってくれる。編み物の得意な方は、自分のマフラーや帽子、チョッキを作製。洗い物や食事の下ごしらえ、社長宅の柿で干し柿作り。近隣からいただいて利用者が下処理した菊が食卓を彩っている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活状況などの情報収集に努め、支援が必要なこと、特徴…在宅の際の生活状況などを把握したサービス提供を計れるように努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	利用者の日常や気が付いた事を日々記録して職員と定期的にモニタリングを行い現状に即した介護計画を作成し家族への確認を行っている	管理者がケアプラン作成を兼務しており、スタッフの意見や気づきは特に重要視している。家族からの「出来ることは何でもやらせて欲しい。」との声を反映させ、利用者個々が、それぞれ自分なりの過ごし方をしているホームといえる。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々のケアのケース記録、気づきを随時入力し他の職員も情報共有できる仕組みと現状を把握した介護を行う事		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者毎の可能な地域資源の活用を行えるように支援していきたい。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携先との連携は保たれている。常時、医療的アドバイスや支持を頂ける体制にある	かかりつけ医以外は、家族が通院に付き添うことを方針としている。訪問歯科も利用できる。皮膚科の医師は症状を見極め、爪切りを実施してくれており、ホーム看護師の存在や医療機関、かかりつけ薬局との連携が、家族の安心感に繋がっている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の看護師を配置し、週単位でのバイタルチェック・健康相談などを定例的に行っている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	各医療機関との連携が図れるように医療相談室・相談室との連携と必要な情報提供のため各利用者の基本情報シートを所定の箇所に管理保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された方への対応について話し合いや検討を行おながら対応方法の模索や可能な限りご家族・ご本人に無理のない支援提供・情報提供を行っていくように努めています	「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき前もって家族に説明し、利用者の重度化の度合に即し、協力医療機関、看護師を交え家族に説明し対応している。看取り介護加算の算定はしていないが、開設以来多くの看取りの経験を有する。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや普段からの異変の兆しや気付きを念頭に介護を行うようになっています。関係先への必要な情報提供のため各利用者の基本情報シートを所定の箇所に管理保管		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導マニュアルの作成・見直し・検討を行い、都度、緊急時に冷静に対応出来る訓練などを定期手に行っており外部研修なども積極的に参加し災害等への事前準備などをおこなっている	近くの公園及び秋田市西部市民サービスセンター(ウェスター)、水害時は、新屋高校を避難場所としている。災害時にはグループホーム連絡会が物品の援助等で支援してくれる等、関係性を築いている。数名の近隣住民が電話連絡により24時間駆けつけてくれる関係にある。運営推進会議を活用し、事業継続計画(BCP)の作成に向けた検討を重ねている。	事業継続計画(BCP)をより現状に即した形で作成できるよう、今後も検討を重ねるよう期待します。
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の守秘義務の徹底し職員採用時や職員会議での注意喚起を行っている	呼称や、日常生活での声かけ等に配慮し、誇りやプライバシーを損ねないように対応している様子がうかがえた。利用者個々の成育歴や好きなことを大切に、それぞれがホームでの役割を持ち、ゆっくりと自分らしく生活している。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感に合わせた適切な衣類などの選択支援や整容・理髪は本人の希望通り、訪問理髪の対応などで又は職員から積極的に働きかけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ゆっくりと食事ができる環境づくりや雰囲気心がけている、可能な範囲での嗜好を考慮した献立・調理の工夫に努めている。	スタッフが輪番で調理を担当しており、冷蔵庫の中身を確認しながら、その日の献立を考えて買い出しをし、家庭らしい食事を提供している。洗い物や下ごしらえ等、出来る範囲で手伝ってもらえるよう配慮している。「私達に心配りしてくれて、柔らかくておいしい。」との利用者からの感想。皆さん果物が大好きとのことで、当日のデザートのみかんは好評だった。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況の把握・注意。各利用者の健康状態に見合う水分摂取量を確認しながら健康状態への配慮をおこなう		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な医療連携先の視界からの助言や支持を仰げる体制にある。食後など個別の口腔ケア、必要な方への対応、入れ歯の保管管理。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の機能状況に応じた排泄用品の使用とし排泄の自立を促す時間毎のトイレ声かけ誘導を行う。	自由にトイレに行かれる方が多い。排泄チェック表を活用しながら、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけやリハビリパンツの使用で、排泄の自立にむけた支援を行っている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の改善・排便記録を活用し各利用者毎に排便状況を把握に努め献立の工夫や水分摂取の促し・担当医からの処方薬での対応を行っている。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	大きな浴槽にゆっくりと浸かり、リラックスして頂けるような配慮を行う。基本的には一人一人、大きな浴槽で入浴している	入浴は毎日実施しており、週に2～3回は入浴できるよう配慮している。中には毎日入浴される方もいるとのこと。車椅子ごと浴室に入れる一般家庭よりも大き目の浴室。洗髪等の一部介助の方や、見守りだけで入浴可能な方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できる環境作りと食後の休憩、ゆっくりと休息できる自室の就寝時の適温管理や利用者に合わせた就寝時間を提供。(基本的には8時頃～随時就寝に入る)		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の種類・量が多い方がいるのでし専用の服薬分類ケースをりようした各職員間での服薬管理を徹底し、複数の職員にて確認を行っている		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割意識を持って頂く事で出来ることは積極的の行っていただくなど、日々の生活にやりがいや生活をしているという意識を持っていただけるようにする		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散策やドライブ、見学など多種多様に行えるようにしている。ご家族との外出や外食なども積極的に進めたりしている	大森山の電波塔、梅林園の紅葉、海を眺めに、栗拾い、買い物兼ねたドライブ等々、コロナ禍にあっても工夫することで、外出できるよう積極的に取り組んでいる。日中は殆ど車の往来が無いためとても静かで、散歩にもうってつけの環境である。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の現金の所持はホームで行っていないが、立て替えなどにて外出時などには自由に現金を使用できるような体制を行っている		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に機能に合わせて安全に配慮し、居心地の良い生活空間となるように工夫に努めている	築約18年とは思えない程、掃除が行き届き過ごしやすいう工夫された空間である。ホールの大きなクリスマスツリーがもうすぐ12月であることを物語り季節を感じさせる。パネルヒーターと床暖効果で、冬も暖かい。住宅街ではあるものの日中はとても静かである。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有ゾーンリビングなどでのテレビ観賞や余暇の時間を過ごされる自由度有り、個人の時間を楽しみたい時や一人になりたい場合は自室での静養ができる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室に個々に思い出のの写真・棚や愛用していた物などを十分に使用して頂くことで居心地の良い空間提供に努めています	居室を見学させていただいたが、どの部屋も個性が溢れ、同じ作りなのに一見まるで別の部屋のように感じる。利用者それぞれの使い方により個性あふれる居室である。各居室のクローゼットがとても大きく広く、驚かされる。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者毎に身体状況や特性、特徴、傾向などを把握した生活環境づくりを心がけてます		